

キネレット®皮下注 100mg シリンジを処方されたみなさんへ

キネレット 自己注射ガイドブック

目次

キネレットの自己注射をはじめるみなさんへ	2
使用上の注意	4
お薬の保管方法	5
自己注射の方法	6
注射の補助具 (キネサポ) について	12
副作用	14
注射の痛み・注射後の痛みを和らげるために	15

自己注射の方法を、動画でもご紹介しています ▶
注射補助具の使い方もこちらからご覧いただけます。

<https://kineret-info-jp.sobimultiprod.com/ja-jp/self-injection>



困ったことがあったら、すぐに医師にご相談ください。

キネレットの自己注射をはじめるみなさんへ

■ キネレットは、全身型若年性特発性関節炎 (sJIA) および成人発症スチル病 (AOSD) のお薬です。

■ キネレットによる治療は、生後8ヵ月以上かつ体重10kg以上の方が対象です。

■ 以下に該当する方は、キネレットによる治療を受けることができません。

- 重い感染症にかかっている方
 - 結核に感染しており、症状がある方
 - 過去に、キネレットの成分または大腸菌由来のタンパク質が原因で過敏症を発症したことがある方
-

■ 以下に該当する方は、医師・看護師・薬剤師にお知らせください。キネレットによる治療可否などについて、医師の判断が必要な場合があります。

- 感染症にかかっている方、感染症が疑われる方
 - 結核の感染が疑われる方、過去に結核に感染したことがある方
 - 好中球減少症の方
 - B型肝炎ウイルスキャリアの方 (症状はないものの持続的に感染した状態の方)、過去にB型肝炎に感染したことがある方
 - 腎臓や肝臓の機能に異常がある方
 - 妊娠中の方、妊娠の予定がある方、授乳中の方
-

■ 医師に、現在使用しているお薬をお伝えください。

キネレットとの併用に注意が必要な場合があります。
(TNF- α 阻害剤、ワルファリンなど)

 キネレットは、毎日1回、ご自身またはご家族が
腹部・太もも・上腕部・お尻などに注射してください(→7ページ)。

● 以下の場所は注射に適さないため、注射しないでください。

- ▶ 皮膚を押したときに痛みがある場所
- ▶ 赤み、しこり、内出血がある場所
- ▶ 傷あとや妊娠線がある場所
- ▶ 皮膚表面に静脈が見える場所

また、必ず前日に打った場所とはちがう場所に注射してください。
同じ場所に注射を続けると、皮膚にしこりや痛みなどが生じることがあります。

- 注射する時間は特に決まっていないので、生活サイクルに合わせて注射してください。起床後・夕食後・就寝前など、決まった時間に注射するようにすると忘れにくくなります。
- 注射後の状況によっては、用量を変更する場合や、治療の中止や変更を検討場合があります。また、重度の腎機能障害のある方、透析を含む末期腎不全の方では、1日おきの投与になる場合があります。

使用上の注意

 治療中に体調が悪くなった場合は、
医師・看護師・薬剤師にご相談ください。
(主治医以外を受診するときは、キネレットを使用していることを伝えてください)

感染症や、全身型若年性特発性関節炎・成人発症スチル病の重大な合併症であるマクロファージ活性化症候群 (MAS) などの可能性があります。このような場合は、感染症やMASの治療を優先させるため、キネレットによる治療の中止や変更を検討することがあります。

 治療中は感染対策をしっかり行ってください。

キネレットを使った治療をすると、感染症にかかっても症状があらわれにくく、悪化しやすい状態になります。

特に高齢の方は、感染症が悪化しやすいので、注意が必要です。

【感染対策の例】

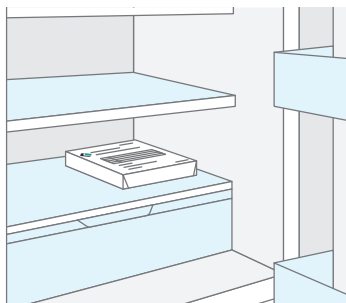
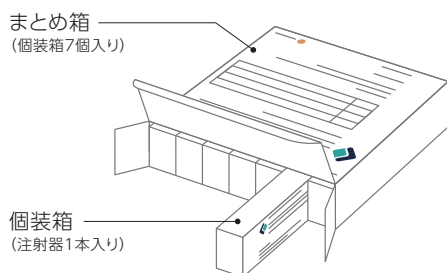
- ▶ 外出時は人混みを避け、マスクなどを着用する
 - ▶ うがい、手洗いを習慣づける
 - ▶ 睡眠を十分にとり、規則正しい生活を送る
-

 治療中は生ワクチン※の予防接種を受けることができません。
(詳細は医師・看護師・薬剤師にご相談ください)

※BCG(結核)、麻しん、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜ、ロタウイルス、帯状疱疹の一部、インフルエンザ(経鼻ワクチン) など

お薬の保管方法

■ キネレットは、まとめ箱または個装箱に入れたまま
冷蔵庫(2～8℃)で保管してください。



【注意】

- ▶ 凍結するのを避けるためチルド室、野菜室や冷気の吹き出し口付近には保管しないでください。
- ▶ 小さなお子さんの手が届かないところに保管してください。

やむを得ず冷蔵庫で保管できない場合は、室温で最大72時間まで保管できます。ただし、一度冷蔵庫から出したら再び戻さないようにしてください。また、室温で72時間以上経った場合は、必ず廃棄してください。

自己注射の方法 1

準備 ①

- 注射の30分前に冷蔵庫からお薬を1つ取り出し、個装箱に入れたまま室温に戻しておきます。
- ⚠ お薬を振り混ぜないでください。
- ⚠ お薬を湯せんや電子レンジなどで加熱しないでください。

準備 ②

- 注射の前に、机の上に次のものを用意します。



お薬



アルコール綿 (2枚)



ティッシュ



廃棄ボックス

準備 ③

- 手を石けんでよく洗います。

準備 ④

- 薬液に異常がないか確認します。
正常な薬液は無色～白色の透明な液であり、半透明～白色のタンパク質性粒子を含むことがあります。
- ⚠ 自己注射の前に目視で確認し、明らかな塊や凝集、変色がある場合は、使用しないでください。

準備 ⑤

● 注射する場所を決めます。

以下の場所には注射しないでください。

- ▶ 皮膚を押したときに痛みがある場所
- ▶ 赤み、しこり、内出血がある場所
- ▶ 傷あとや妊娠線がある場所
- ▶ 皮膚表面に静脈が見える場所
- ▶ 前日に注射した場所

注射に適した場所

A 腹部(おへその周りを除く)

B 太もも

C 上腕部

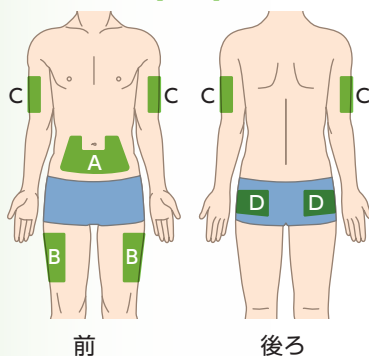
※他の人に注射してもらう場合のみ

D お尻

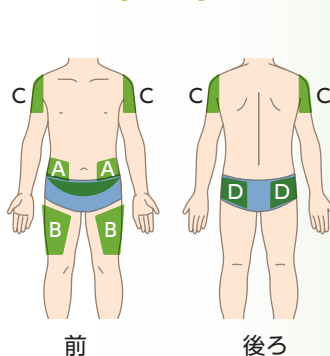
※他の人に注射してもらう場合のみ

(AとDは子どもには適さない場合があります。医師の指示に従ってください。)

【大人】



【子ども】



次ページに続く ▶

自己注射の方法 2

ステップ ①

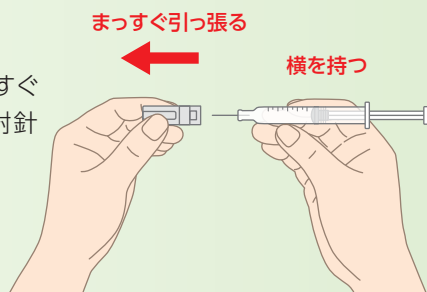
- 注射する場所をアルコール綿で拭きます。

注射が終わるまで服をめくったままにし、
拭いた場所は触らないようにします。

ステップ ②

- 注射器のキャップを外します。

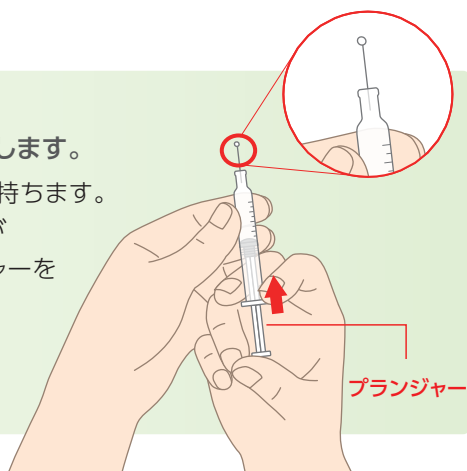
注射器の横を持ち、キャップをまっすぐ
横に引っ張ると、指を刺したり、注射針
を曲げたりせずに外せます。



ステップ ③

- 注射針の先端まで薬液を満たします。

- ① 注射針をまっすぐ上に向けて持ちます。
- ② 注射針の先端に小さな薬液が見えるまで、親指でプランジャーをゆっくり押し上げます。



ステップ④

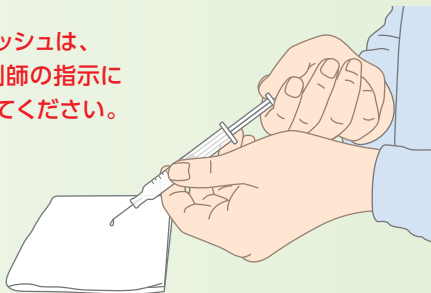
体重が50kg未満の方のみ

体重50kg以上の方は、調節する必要はありません

- 薬液を注射する量まで減らします。

敷いたティッシュの上に、注射する量になるまで薬液を出します。
(注射器は両手で持つと安定します)

⚠ 薬液を出したティッシュは、
医師・看護師・薬剤師の指示に
したがって廃棄してください。



医師・看護師・薬剤師と、注射する量を決めましょう

あなたが注射する量 ▶

mg

memo

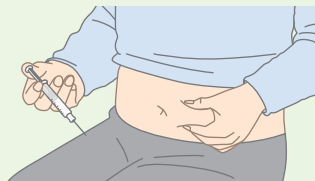
次ページに続く ▶

自己注射の方法 3

ステップ ⑤

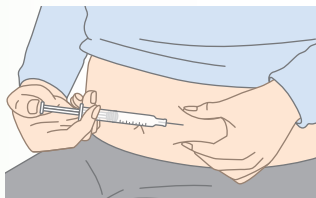
● 決めた場所に注射します。

- ① 利き手で注射器を持ち、反対の手で注射する場所の皮膚をしっかりとつまみます。

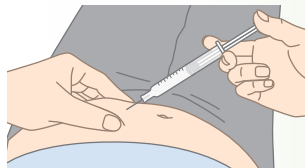


- ② 注射針を皮膚に対して45～90度の角度で刺します。

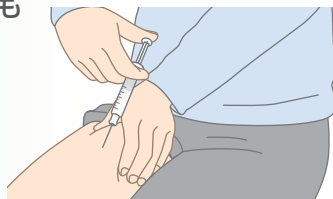
● 腹部



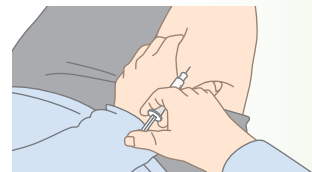
▼ 自分で注射するときの見え方



● 太もも

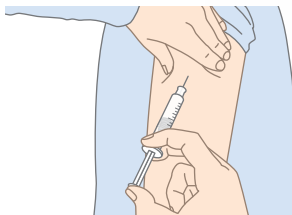


▼ 自分で注射するときの見え方

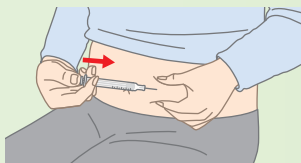


● 上腕部

※他の人に注射してもらう場合のみ



- ③ プランジャーを最後までゆっくりと押し切り、薬液を全て注入します。

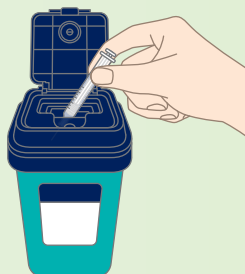


- ④ 注射針を抜き、廃棄ボックスに廃棄します。

⚠ 使用済の注射器は必ず廃棄ボックスに廃棄し、再利用しないでください。

⚠ 余った薬液は必ず廃棄してください。

※廃棄ボックスがいっぱいになったときの対応は、医師・看護師・薬剤師にご確認ください。



- ⑤ 注射した場所をアルコール綿で30秒以上押さえて止血します。

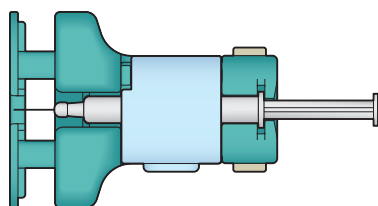
出血が止まったら、注射は終了です。

※ 2 ～ 3分圧迫を続けても血が止まらない場合は、医師にご連絡ください。

memo

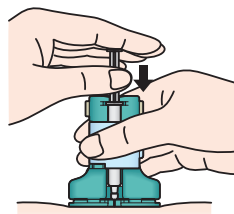
注射の補助具 (キネサポ) について

- 自己注射をより適切に行っていただけるよう、注射器をセットして使う補助具をご用意しています。お使いになりたい方は、医師・看護師・薬剤師にご相談ください。



補助具 (キネサポ)

皮膚に密着する部分が広いので、安定して注射することができます。



補助具を使った注射の方法は、補助具の付属説明書をご参照ください。
また、動画でも紹介していますので、あわせてご覧ください。

<https://kineret-info-jp.sobimultiprod.com/ja-jp/self-injection> ▶



memo

副作用

注射後に異常を感じたら、医師・看護師・薬剤師にご連絡ください

- 注射部位反応

【症状】キネレットを注射した部位の、痛み、腫れ、赤み、かゆみ など
キネレットを注射した方に多く見られる副作用です。

- 重篤な感染症

(蜂巣炎^{ほうそうえん}、肺炎、骨および関節の感染症、サイトメガロウイルス肝炎^{ひよりみ}、日和見感染症 など)

【症状】発熱、寒気、体がだるい など

- 好中球減少症

【症状】発熱、寒気、喉の痛み など

- 薬剤性過敏症症候群

【症状】皮膚が広い範囲で赤くなる、全身の発疹^{ほっしん}、発熱、体がだるい、
リンパ節の腫れ など

- アナフィラキシー

【症状】全身のかゆみ、じんましん、喉のかゆみ、ふらつき、動悸^{どうき}、息苦しさ など

その他に、アレルギー反応（じんましん、皮膚のかゆみ など）、血小板減少症^{けっしょうばんげんしょうしょう}、頭痛、肝酵素上昇^{かんこうそと}、非感染性肝炎、発疹、注射部位アミロイド沈着（硬いしこり など）、血中コレステロール増加などが起こることがあります。

注射の痛み・注射後の痛みを和らげるために

■ 注射後の痛み

- キネレットを注射すると、注射した場所に強い痛みが、治療を開始してから4週間以内にあらわれることがあります。
※その他、かゆみ、皮膚の赤み、腫れ、内出血などがあらわれることもあります。
- 何か気になることがあれば、医師・看護師・薬剤師にご相談ください。

■ 注射の痛み・注射後の痛みを和らげるために

【注射の前】

- ・ 注射器を手で握り、体温で温めておく
※体温以外で加熱しないでください。
- ・ 注射する部位を冷湿布や保冷剤で冷やしておく
- ・ 医師から局所麻酔クリーム（または麻酔パッチ）を処方されている場合は、説明に従って使用する

【注射した後】

- ・ ステロイドクリームや抗ヒスタミンクリームを、注射した部位に使用する
- ・ 注射した部位を冷湿布や保冷剤で冷やす



局所麻酔クリーム（または麻酔パッチ）やステロイドクリーム、抗ヒスタミンクリームの詳細は、医師にご相談ください。

